

私たちの「イチ押しコンテンツ」アイデア！

※背景も工夫しましょう！自分のコンテンツが魅力に見える写真が理想的

発表テーマがわかるタイトル

キャッチコピー

発表者の名前

誰に届けたい？ 私たちの「推しユーザー」紹介（ペルソナとニーズ）

- ウェブサイトを一番見てほしい「代表的なユーザー像（ペルソナ）」はどんな人？（プロフィール、興味、悩みなど）
- その「推しユーザー」が、大学ウェブサイト本当に求めていることは何だろう？（ニーズ）

[次の質問に答えられるように作る]

- このウェブサイトを使ってほしいのは、どんな人？（例：高校2年生の〇〇ちゃん、みたいに名前やニックネームをつけても面白いかも！）その人の悩みや興味は何かな？
- その人が大学ウェブサイトを見るとき、一番「これを知りたい！」って思うことや、「これが解決されたら嬉しい！」ってことは何だろう？

今のサイト、どうなってる？ ライバルは？（現状サイトの問題点と競合調査）

- **今のウェブサイト:** 今の学部のウェブサイトを見て、「ここが分かりにくい...」「これじゃ魅力が伝わらないかも...」と感じる具体的な問題点は何？
- **ライバル大学:** 他の大学のウェブサイトの「いいな！」と思った点と、「これはうちの大学もチャンスあり！」と思った点は？

[次の質問に答えられるように作る]

- **今のウェブサイト:** * 今の学部のウェブサイトを見て、「ここが分かりにくいな」「情報が古いかも」「もっとこうだったらいいのに」って思うところは、具体的にどこ？ * どうしてそこが問題だと思う？（例：見たい情報にたどり着けない、学部の良さが伝わってこない、など）
- **ライバル大学:** * 他の大学のウェブサイトで、「このページ、すごくいい！」「このコンテンツ、うちの大学にもほしい！」って思ったのはどんなものだった？ * 他の大学のサイトと比べて、うちの学部のサイトが「もっとこうなったらいいな」って思うところはどこ？

だから、こうしよう！ 私たちの「ひらめき」ポイント（分析からの気づき）

- 「推しユーザー」の気持ち、今のサイトの問題点、そしてライバル大学の状況を考えてみて、私たちは「だから、こういうコンテンツで解決しよう！」とひらめいた！その一番大事な「気づき」や「アイデアのタネ」は何？

[次の質問に答えるスライドを作る]

- 「推しユーザー」が困っていることや知りたいこと、今のウェブサイトの「ちょっと残念なところ」、そして他の大学の「すごいところ」を全部考えてほしい。
- 私たちは「これだ！」っていうアイデアの「種」を見つけた！それは何？
- その「種」から、どんなコンテンツを作れば、みんながハッピーになると思う？

イチ押しコンテンツ案①：[具体的なコンテンツ名]

- **どんな内容？**: 誰に、どんな情報を、どんな形（動画、記事、クイズなど）で届けるのか、具体的に。
- **「ここがイイ！」ポイント**: どうしてこのコンテンツがユーザーの心に響き、今のサイトの問題点を解決できると思うか、その理由を説明（ペルソナ、ニーズ、現状の問題点、競合調査の結果と結びつけて！）。
- **イメージ図**: （もしあれば）どんな感じのページになるか、簡単な絵や図で。

[次の質問に答えるスライドを作る]

- このコンテンツは、さっき見つけた今のウェブサイトの「残念なところ」を、どうやって良くするもの？
- そして、「推しユーザー」のどんな「知りたい！」に、どうやって応えるの？
- 他の大学にはない、うちの学部ならではの「面白い見せ方」はできそう？
- このページ、どんな感じになるか絵に描いて見せて！

イチ押しコンテンツ案②（と③もあれば）：[具体的なコンテンツ名]

- **どんな内容？**: もう一つのコンテンツ案も、具体的に説明。
- **「ここがイイ！」ポイント**: こちらも、なぜ良いと思うか、どう問題解決に繋がるか、理由を説明。
- **イメージ図**: (もしあれば) 簡単な絵や図で。

[次の質問に答えられるように作る]

- もう一つ、「これも絶対見てほしい！」っていうコンテンツアイデアは何かな？
- それも、どうやって今のサイトを良くして、ユーザーを喜ばせることができるか教えて！

まとめ：このコンテンツで、ウェブサイトはもっと輝く！

- 今回提案したコンテンツのおさらい。
- これらのコンテンツで、今のウェブサイトの問題点がどう改善され、ユーザーにとってどんないいことがあるかを改めてアピール。「私たちのアイデアで、もっと魅力的なウェブサイトに！」という気持ちを伝えよう。

[次の質問に答えられるようなスライドを作る]

- 今日提案したコンテンツで、今のウェブサイトのどんな「残念」が「最高！」に変わるかな？
- そして、ウェブサイトを見てくれる人たちにとって、どんないいことがあるか、もう一度自信を持って伝えよう！